

2018 年 いきもの調査結果 <昆虫類>

渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会

大 川 秀 雄

調査の概要

調査日	調査内容		調査場所
	見つけ採り・Sweeping など	ピットホールトラップ	
4 月 8 日			
5 月 27 日	ライト FIT を実施(1 基設置)		
5 月 23 日		設置	
5 月 25 日		回収	
6 月 17 日			
9 月 9 日			
10 月 14 日	調査者全員欠席		
10 月 19 日		設置	
10 月 23 日		回収	

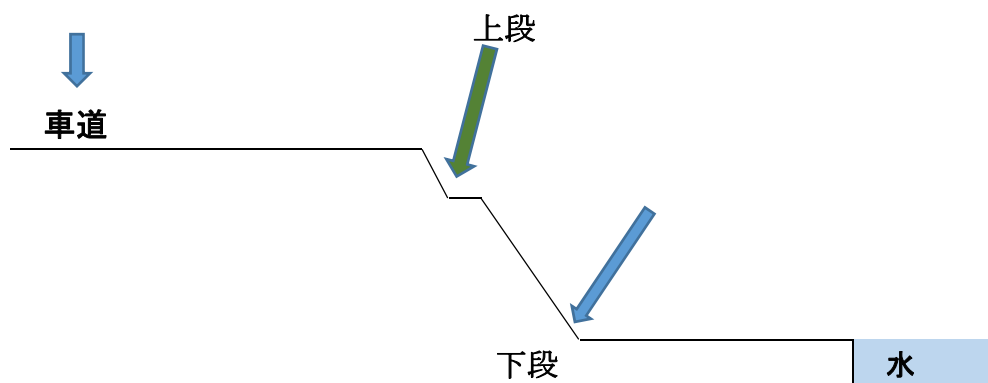
*Sweeping は 42 cm 口径の捕虫網を使用。

*ライト FIT は水位安定型実験地で 5 月 23 日～25 日に明暗センサー付きの LED ライトを使用した月齢が悪いこともあり殆ど成果なし。

*ヤナギの繁茂が著しく定量的な Sweeping 調査はできなかった。

*2018 年は渡良瀬遊水池全体にコガネムシの異常発生があり調査地でも多かった。

ピットホールトラップ設置地点 (に設置)



調査の結果

池の中の虫：5月27日にババアメンボ（国のレッドデータ昆虫で準絶滅危惧種）が新たにみつかる。池の周囲に草が生え生息環境が良好になったためと思われる。タマガムシ 1頭が6月17日に新たに見つかる。ほかの虫については変わり映えない。

9月9日の調査では池の水が干上がり底の泥がひび割れ、その後冠水する。虫はまったく見られない。タイワンシジミの殻が目立つ。

地面の虫：スゲノハラジロヒメゾウムシ（栃木県絶滅危惧種：要注目）、ムモンチャイロテントウ（栃木県絶滅危惧種：要注目）を確認するが種類数は少ない。特に9月9日の調査ではショウリョウバッタモドキを確認した程度で、虫は非常に少ない。

特記事項としてガマキスイ、ババスケヒメゾウムシ（栃木県絶滅危惧種：要注目）を確認した。

水生昆虫はと比べ少ない。9月9日はヨシ・スゲ類を Sweep したが虫は殆どいない。暑く調査は厳しい。

掘削池の周囲に良好なスゲ原があり、ここでトネガワナガゴミムシ（栃木県絶滅危惧種：準絶滅危惧種）、クロズヒョウタンナガカメムシ（栃木県絶滅危惧種：準絶滅危惧種）を確認するが虫は少ない。特に9月9日はヨシ・スゲ類を Sweep したが虫は殆どいない。池の中の虫はと比べ少ない。ヌマガエル（国内外来種）がやたらと目立つ。

池の周囲にはいまのところエリザハンミョウの巣穴が多いが、2～3年後には遷移が進み見られなくなる。

2018 年ピットホールトラップの結果

トラップ設置日 2016 年	5 月 23 日～25 日		10 月 19 日～23 日	
種 名	上段	下段	上段	下段
アカガネオサムシ	1			
キアシヌレチゴミムシ				14
クロオオナガゴミムシ			1	3
オオクロナガゴミムシ				2
オオマルガタゴミムシ	5	4		
ゴミムシ		1		
チョウセンゴモクムシ		1	3	
スジアオゴミムシ		1		
アオゴミムシ			3	3

*上段，下段ともに 10 個設置。餌はなし。透明プラスチックコップ使用（直径 7 cm）。

*10 月 19 日～23 日に設置した下段 3 個が哺乳動物により荒らされる。

*アカガネオサムシは国の絶滅危惧種で絶滅危惧Ⅱ類。チョウセンゴモクムシも国の絶滅危惧種で絶滅危惧Ⅱ類。

ワタラセハンミョウモドキの調査

別紙に報告。

2018 年調査の所見

- ① ■■■■■ではババアメンボ、タマガムシが新たに確認されたが水生昆虫は種類数の増加がほとんどない。
- ② ■■■■■ではヤナギの繁茂が著しく調査は困難であった。虫も少ない感じである。
- ③ ■■■■■と比べ水生昆虫は貧弱である。

国のレッドデータ昆虫で渡良瀬遊水池から記録のあるもの(63種)

(2018年11月改定)

報告 大川 秀雄

既に絶滅したものも含まれる。

把握したもののみで漏れがあるかもしれない。**赤字**は最近の記録がないもの。ほかにもここ20年記録のないものが数種ある。

絶滅危惧ⅠA類(CR) 2種	ベッコウトンボ、アオヘリアオゴミムシ
絶滅危惧ⅠB類(EN) 10種	オオモノサシトンボ、コバネアオイトトンボ、オオキトンボ、コハンミョウモドキ、ワタラセハンミョウモドキ、チビアオゴミムシ、オオイチモンジシマゲンゴロウ、ヒメミズスマシ、セスジガムシ、シルビアシジミ
絶滅危惧Ⅱ類(VU) 15種	ナゴヤサナエ、タガメ、ホソハンミョウ、アカガネオサムシ、チョウセンゴモクムシ、ツヤキベリアオゴミムシ、トダセスジゲンゴロウ、クシヒゲアリヅカムシ、オビヒメコメツキモドキ、アシナガモモブトスカシバ、ガマヨトウ、キスジウスキヨトウ、ヌマベウスキヨトウ、オオチャバネヨトウ、イチモンジヒメヨトウ
準絶滅危惧(NT) 24種	ベニイトトンボ、モートンイトトンボ、アオヤンマ、ババアメンボ、エサキアメンボ、シロヘリツチカメムシ、ミヅナシミズムシ、セアカオサムシ、イグチケブカゴミムシ、クマガイクロアオゴミムシ、エチゴトックリゴミムシ、オオトックリゴミムシ、ケシゲンゴロウ、キベリクロヒメゲンゴロウ、オオミズスマシ、ヤマトモンシデムシ、オオルリハムシ、コウノハバチ、ウマノオバチ、ハイイロボクトウ、ギンイチモンジセセリ、スゲドクガ、シロホソバ、カギモンハナオイアツバ
情報不足(DD) 12種	ヤマトセンブリ、クビナガヨツボシゴミムシ、タナカツヤハネゴミムシ、オオサカアオゴミムシ、クビナガキベリアオゴミムシ、ハガクビナガゴミムシ、アリスアトキリゴミムシ、ホソマルチビゲンゴロウ、コガムシ、アオスジクモバチ、モンズズメバチ、カエルキンバエ

ホソマルチビゲンゴロウは未発表資料による。

アオヤンマ、ナゴヤサナエは逆井・大川（印刷中）による。

湿地再生地におけるワタラセハンミョウモドキ調査 ⑧

大川 秀雄

調査日および調査結果

2018 年 3 月 31 日 個人調査

： 1 頭確認

： 2 頭確認

2018 年 4 月 8 日 住民協議会主催生きもの調査

： 1 頭確認

： 2 頭確認

： 1 頭確認

2018 年 4 月 10 日 個人調査

今年度未確認地点を中心に調べた

： 2 頭確認

： 2 頭確認

の調査：見出せず。但し生息可能な環境があり今後も継続調査の必要あり。

2018 年 4 月 20 日 個人調査 主たる調査はコメツキムシ

： 1 頭確認

における生息地調査でワタラセハンミョウモドキが生息可能な場所ではほぼ生息が確認できた。

でも確認できたがヤナギの繁茂が旺盛で継続して生息場所を維持するにはヤナギの除去は欠かせない。

■■■■■における 2018 年ワタラセハンミョウモドキ確認地

(図は国土交通省ホームページより) 秘

非公開

開催年		2018		2018		2018		2018	
開催月		5		6		9		10	
開催日		22		11		10		8	
時間	開始	6:15	7:12	6:10	7:10	6:15	7:00	6:10	7:07
	終了	7:12	8:15	7:05	8:15	7:00	7:52	7:00	8:00
天 候		晴		曇		曇		雨・曇	
確認種		21(1)	16(1)	19(3)	12(6)	11(1)	12(1)	16(4)	21(0)
目	科	種		種		種		種	
キジ	キジ	2	4	3(3)	0(2)				
カモ	カモ	1(1)	7	10	4(1)	41	25	1 3(22) 40(22)	9 19
								1(50)	12
カイツブリ	カイツブリ			0(1)	2				
ハト	ハト	5	3	4(1)	1	1(1)	7(2)	2	5(1)
カツオドリ	ウ	3	1	1	0(1)	2	2	1	1
コウノトリ	サギ	1 1 1	2 4(1)	1 1 1	1			0(2) 2(1)	1 30日
ツル	クイナ								
カッコウ	カッコウ	0(2)	0(3)	0(4)	0(4)				
チドリ	カモメ								1
	シギ								1
タカ	ミサゴ					0(1)	1		
	タカ	1	1(1)	0(1)	0(1)	1		0(2) 1	1(1) 1
ブッポウソウ	カワセミ	2	1	1	2				
ハヤブサ	ハヤブサ				1		0(1)		
スズメ	モズ							2	1(1)
	カラス	2 5(3)	1(3)	1 1	0(1) 0(1)		1(1)	1 0(2) 1	1(1) 2(1)
	シジュウカラ	1							2(1)
	ヒバリ	6	4	3(1)	2(1)			2	7
	ツバメ					1 2	5	17	14
	ヒヨドリ							0(3)	80(114)
	ウグイス	2	1	2	1				
	センニュウ	1							
	ヨシキリ	18(17) 18	33(9) 14	22(2) 20	26(1) 39	1 1	1		
	セッカ	9	8	5	11	1	2		
	セキレイ								
	アトリ	1		5		4(7)	21	30	133(43)
	ホオジロ	6 1	3 3	4 3	9	5	2	3(1) 5	9 3
総 数 (羽)		87(23)	90(17)	89(13)	99(13)	62(9)	71(4)	112(105)	306(163)